

エコアクション21 (EA21)

# 環境活動レポート

2015年度  
(2015年2月～2016年1月)



作成 : 2016年 7月 1日



承認	作成
岩崎 (厚)	澤田

# I. 組織の概要及び略歴

## 会社概要

### 1. 事業所名及び代表者

株式会社 小名木川ギヤー  
代表取締役社長 岩崎 厚三

### 2. 所在地

本社；東京都江東区猿江1丁目2番7号

TEL 03-3631-0037(代)

FAX 03-3635-0868

E-mail ong@green.ocn.ne.jp

千葉工場；千葉県茂原市萱場1525番地

TEL 0475-34-4536(代)

FAX 0475-34-4568

E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

大網分工場；千葉県大網白里市大網1803番地

TEL 0475-73-1816

FAX 0475-73-1816

### 3. EA21責任者・連絡先

管理責任者 専務取締役工場長 岩崎 諭三  
連絡先 環境事務局 担当課長 岩崎 洋明

TEL 0475-34-4536(代)

FAX 0475-34-4568

E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

### 4. 事業の規模

従業員数	名 (2016年 1月)
売上高	(百万円) / 2016年 1月期
敷地面積	本社 366㎡
	千葉工場 6,982㎡
	大網分工場 1,468㎡
床面積	本社 195㎡
	千葉工場 3,674㎡
	大網分工場 1,282㎡

### 5. 会社沿革

当工場の沿革を次に記述する。

大正9年 東京本所区錦糸町に岩崎鉄工所として創業。諸機械及び歯車の製作を開始。

昭和6年 深川区千田町に移転。小名木川ギヤー製作所に社名変更。歯車専門メーカーとなる。

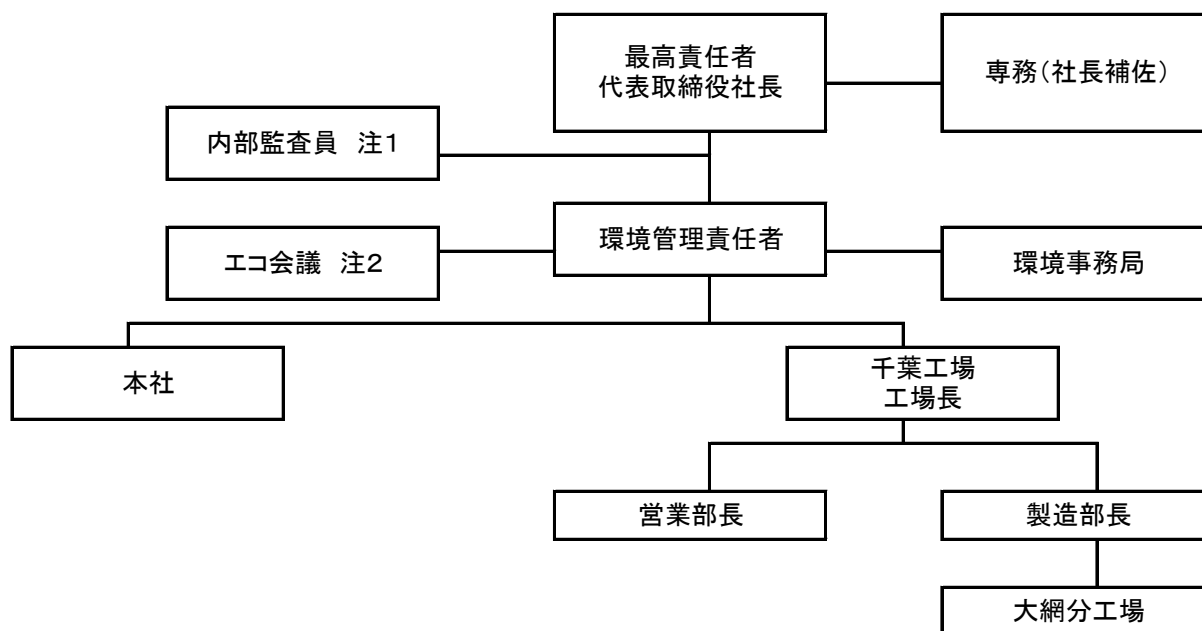
昭和19年 深川区猿江町に本社、工場を移設。

昭和24年 合資会社小名木川ギヤー製作所として法人化。資本金50万円。  
 昭和50年 株式会社小名木川ギヤーに改組。資本金2,000万円。  
 昭和56年 千葉県茂原市に千葉工場を建設。  
 昭和61年 製造業務をすべて集結。  
 平成15年 ホームページ公開(URL:http://www.onagigawa.co.jp/)  
 平成16年 千葉県山武郡大網白里町に大網分工場開設。  
 平成21年 環境マネジメントシステム、エコアクション21認証・登録。  
 平成21年 品質マネジメントシステム、ISO9001-2008登録。  
 平成23年 大網分工場第3工場新設。  
 平成25年 大網分工場住所名変更  
 千葉県大網白里市大網1803番地  
 平成25年 千葉工場デマンドコントロール設置

## 6. 現在の事業内容

歯車製造業として材料(主として鋼材)調達から、機械加工、熱処理(取引先に外注)、表面処理(取引先に外注)、梱包、輸送までの一貫した事業を行っている。

## 7. 環境組織図



注1 : 環境管理責任者及び管理者からチーム編成

注2 : 委員長:環境管理責任者、委員:社長・専務・部門長・環境事務局

## II, 対象範囲

事業活動と同じ『歯車製造』を認証登録する。

## Ⅲ、環境方針

### 基本理念

### —— 我らの地球を守ろう！ ——

当社は、地球環境保全が全人類にとって最大重要課題であることを深く認識し、事業活動のすべての面で環境に配慮した行動に努め、同時に地域社会との調和を保ちながら事業を推進・発展させていくことを目指します。

### 基本方針

1. 歯車製造の事業活動を通じて環境経営システムを構築し、人と地球に優しい事業活動の推進と環境負荷の低減に努めます。
2. 環境に関する法規制を遵守し、環境汚染の防止と環境保全に努めます。
3. 当社が行なう環境活動は、以下を重点的に行っていきます。
  - 1) 工場、事務所内での省資源・省エネルギーの取り組み。
  - 2) 生産活動にともなう加工不良、廃棄物、排出物の削減。
  - 3) 調達品のグリーン購買。
4. 本方針に基づき環境目標を定め、環境活動計画に従って自主的かつ積極的な活動を展開するとともに、必要があれば環境方針の見直しを実施します。
5. 本方針を従業員および協力企業に周知するとともに、当社の活動を示した環境レポートを作成し、社外に公表します。

2010年 1月 27日  
株式会社 小名木川ギヤー  
代表取締役社長 岩崎 厚三

## IV, 環境目標

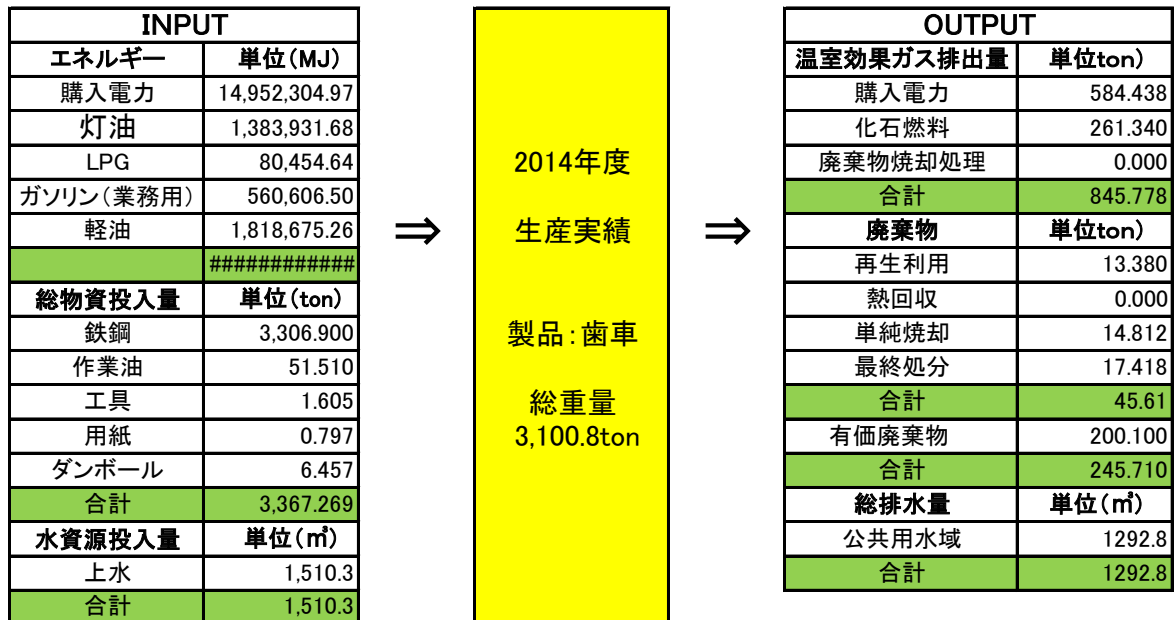
### 1. 環境負荷の実情(2014年度)

注 2014年度は2014年2月～2015年1月

項目	単位	目標値	実績	低減率	判定
電力使用量	kwh/生産量(ton)	453.03	532.62	+17.5%	未達成
灯油使用量	L/月	4,994.46	4,713.68	△94.4%	達成
ガソリン・軽油使用量	L/生産量(ton)	32.46	20.575	△63.3%	達成
LPG使用量	kg/月	224.057	200.335	△89.4%	達成
二酸化炭素排出量	ton/生産量(ton)	0.325	0.273	△83.6%	達成
一般廃棄物排出量	kg/生産量(ton)	4.427	4.768	+7.8%	未達成
産業廃棄物排出量	kg/生産量(ton)			%	
総排水量	m <sup>3</sup> /実働延人員	0.049	0.052	+6.1%	未達成
調達品のグリーン購買	件数	100%	OK		達成

上表の実績からまとめた2014年度の環境マテリアルバランスは次の通りです。  
環境マテリアルバランスとは、事業活動による環境負荷の低減を評価するために、  
資源やエネルギーなどの投入と二酸化炭素や廃棄物などの排出量を算出し  
図式化した一覧表である。

2014年度の環境マテリアルバランスは次の通りとなった。



CO<sub>2</sub>生産比率(CO<sub>2</sub>排出量1トン当たりの生産重量高比)を算出し、  
この指数を毎年改善していく。  
2014年度の実績

$$\text{製品重量 } 3,100.8(\text{ton}) / \text{CO}_2\text{排出量 } 845.778(\text{ton}) = 3.666$$

2013年度の指数が3.980であり、2014年度の指数は3.666となり、  
前年度を下回りました。

・環境負荷の実績に関しましては、エコ活動が定着してきたこともあり目標値をクリアする項目が増えてきました。なお、2点の項目が未達成となりました。  
LPG・総排水量に関しましては気温の変化が例年より大きかったため冬季の暖房用燃料として使用したことが主要因と思われる。  
また、総排水量に関しましては、2011年度には、水道の元栓を30%制限して効果を挙げていたが、社内の一部の設備の水力不足により故障が発生いたしましたので、2012年度から制限を解除したことで、気温の上昇による使用量が増えたことが原因と原因と思われます。

## 2 .環境目標

2012年度以降の環境目標は、いずれの項目とも前年度の実績を基準として活動を行なうこととして、その低減率を下表のように設定している。

項目	単位	2012年度～2015年度目標(低減率)
電力使用量	kwh/生産量	前年度実績を基準として△3%
灯油使用量	L/月	前年度実績を基準として△3%
ガソリン・軽油使用量	L/生産量	前年度実績を基準として△3%
LPG使用量	kg/月	前年度実績を基準として△3%
二酸化炭素排出量	ton/生産量	前年度実績を基準として△3%
一般廃棄物排出量	ton/生産量	前年度実績を基準として△5%
産業廃棄物排出量	ton/生産量	前年度実績を基準として△3%
総排水量	m <sup>3</sup> /実働延人員比	前年度実績を基準として△5%
調達品のグリーン購買	購入件数	調達品全件数

## V. 主要な環境活動計画の内容

No.	項目	目標値	改善活動の内容
1	電力使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消灯(月4回程度巡回点検)
			②エアコン適温化(夏季:28℃、冬季:20℃)
			③電気ストーブ周りの適温化(足元温度:25℃以下)
			④エア配管系のエア漏れ点検修理
2	灯油使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消火(月4回程度巡回点検)
			②灯油ストーブ周りの適温化(室温:20℃以下)
			③洗浄油再利用の活性化
3	ガソリン・軽油 使用量	前年度実績 3%低減	①輸送ルートの事前検討励行(運行管理者による日常指導)
			②フォークリフト省エネ運転励行(管理者注視による指導)
			③社有車の計画的運行
			④省エネ社有車の導入
4	LPG使用量	前年度実績 3%低減	①ガスストーブ周りの適温化(室温:20℃以下)
5	一般廃棄物排出量	前年度実績 5%低減	①梱包緩衝材をリユース材へ変更
			②コピーの縮減、裏紙利用促進
			③分別励行による可燃物縮減
6	産業廃棄物排出量	前年度実績 3%低減	①廃油リサイクル
			②産業廃棄物の適正処理
			③工事排出物の業者指導
			④破損パレット返却励行
7	総排水量	前年度実績 5%低減	①蛇口付近に節水励行札の取り付け
			②朝礼等にて啓蒙活動
8	調達品のグリーン 購買	事務用品に適用 購入品100%	①注文時にグリーン用品を指定
			②納入品のグリーンマーク確認

## VI、 2015年度における環境目標とその実績

2015年度における環境負荷（電力及び化石エネルギー使用量、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量）、調達品のグリーン購買の実情は次の通り。

注 2015年度は2015年2月～2016年1月

項目	単位	目標値	実績	低減率	判定
電力使用量	kwh/生産量(ton)	439.44	662.20	150.69%	未達成
灯油使用量	L/月	2,430.35	2,704.58	111.28%	未達成
ガソリン・軽油使用量	L/生産量(ton)	18.87	22.736	120.51%	未達成
LPG使用量	kg/月	107.170	106.069	98.97%	達成
二酸化炭素排出量	ton/生産量(ton)	0.240	0.347	144.58%	未達成
一般廃棄物排出量	kg/生産量(ton)	3.290	8.519	258.94%	未達成
産業廃棄物排出量	kg/生産量(ton)	13.581	1.994	14.68%	達成
総排水量	m <sup>3</sup> /実働延人員	0.048	0.043	89.58%	達成
調達品のグリーン購買	件数	100%	OK	#VALUE!	達成

上表の実績からまとめた2015年度の環境マテリアルバランスは次の通りです。  
環境マテリアルバランスとは、事業活動による環境負荷の低減を評価するために  
資源やエネルギーなどの投入量と二酸化炭素や廃棄物などの排出量を算出し、  
図式化した一覧表である。

2015年度の環境マテリアルバランスは次の通りとなった。

INPUT		⇒	2015年度 生産実績 製品：歯車 総重量 2,352.5ton	⇒	OUTPUT	
エネルギー	単位(MJ)				温室効果ガス排出量	単位(ton)
購入電力	0.00				購入電力	0.000
灯油	0.00				化石燃料	0.000
LPG	0.00				廃棄物焼却処理	0.000
ガソリン(業務用)	0.00				合計	0.000
軽油	0.00				廃棄物	単位(ton)
合計	0.000				再生利用	0.000
総物資投入量	単位(ton)				熱回収	0.000
鉄鋼	2,541.80				単純焼却	0.000
作業油	0.00				最終処分	0.000
工具	0.697				合計	0.00
用紙	0.000				有価廃棄物	0.000
ダンボール	0.000				合計	0.000
合計	2,542.497				総排水量	単位(m <sup>3</sup> )
水資源投入量	単位(m <sup>3</sup> )				公共用水域	1199.1
上水	0.0				合計	1199.1
合計	0.0					

CO<sub>2</sub>生産比率(CO<sub>2</sub>排出量1トン当たりの生産重量高比)を算出し、  
この指数を毎年改善していく。

2015年度の実績

$$\text{製品重量 } 2,352.5(\text{ton}) / \text{CO}_2\text{排出量 } (\text{ton}) =$$

2014年度の指数が3.666であり、2015年度の指数はとなり、  
前年度を回りました。



## Ⅶ、環境保全活動の取組み結果の評価と次年度取組みについて

### 1. 2015年度の目標に対する評価

二酸化炭素排出量:	目標値を達成することが出来ませんでした。全体的に改善が見られているよこのままの状態を維持したい。
電力使用量:	目標値を達成することが出来なかった。5月から第1工場、第2工場の照明をLEDに交換した成果が表われていますが、2月から4月までの実績が影響して目標値を越えてしまいました。
灯油使用量:	目標値を達成することが出来ませんでした。今年度は、気候の変化が激しく使用量が増加してしまいました。
ガソリン・軽油使用量:	無駄な走行をせずに、エコ運転が実践されていることで、目標値を達成することが出来ました。
LPG使用量:	目標値を達成することが出来ました。5月から11月までに使用量を節約することが出来たと思われる。
一般廃棄物排出量:	目標値を達成することが出来なかった。工場の不用品保管期限の切れた書廃棄物の処分のため数値が多くなった。
産業廃棄物排出量:	2014年度から、計算方法が変更になり、前年度の目標値の対比が出来ませんでした。
総排水量:	目標値をわずかにオーバーし達成することが出来なかった。昨年同様に夏の猛暑の影響で給水及び植木・通路等に撒く水量の増加が原因していると思われます。

### 2. 内部監査・外部監査の結果

#### (1) 内部監査

2016年1月日(工場及び本社)にて実施した。

- \* 監査の結果、不適合判定はありませんでした。観察は件発生しましたが、調査終了をしましたことをマネージメントレビューにて報告し、了承されました。

#### (2) 外部監査

但し、EA21の更新審査にて実施しました。

### 3. 次年度取組み内容

全体的には、現状の取組み内容を継続する予定であります。2015年度未達成の項目の改善と次項の施策に取り組む。

- (1) 電気使用量は昨年より無駄の配慮の傾向が見られてきた。
- (2) 一般廃棄物の削減も徐々に行なわれている傾向が見られてきている。
- (3) 工場内の水道の使用方法的改善を進めていきたい。

## VIII. 環境関連法規の遵守状況及び違反、訴訟等の有無

### 1. 法規制遵守の適合性評価

適用を受ける法規制とその遵守状況(調査結果)を次表に示す。

#### 1. 法規制遵守状況の適合性評価

No	適用法	規制値基準値	届出が必要な施設等	対象作業	記録類			備考	調査結果
					記録名	頻度	保管期間		
1	工場立地法	下記	生産施設 緑地面積等	規制基準 遵守及び 施設の届出	なし	なし	なし	無指定地域	届出・規制対象外 (下記参照)
2	消防法	下記	生産施設	施設の届出	なし	なし	なし	法規制施行 以前の建築 の為対象外	
3	廃棄物 処理法	なし	なし	産業廃棄物 1.保管基準 遵守 2.業者委託 契約 3.マニフェスト 伝票管理 4.産廃実績報 告	産業 廃棄物 管理表	発生都度	5年	2014年度 特別管理産業 廃棄物管理責 任者の資格 (2名)取得	遵守OK (対象 作業欄 ともOK)
4	自動車 Nox PM法	なし	なし		なし	なし	なし	普通貨物車 ディーゼル 貨物車	遵守OK (適合者 使用)
5	自動車 リサイ クル法	なし	なし	廃棄時 適性処分	適正処分 証明書	発生都度	3年	社有車	遵守OK
6	家電 リサイ クル法	なし	なし	廃棄時 適性処分	適正処分 証明書	発生都度	3年	家電製品 4品目	遵守OK
7	パソコン リサイ クル法	なし	なし	廃棄時 適性処分	適正処分 証明書	発生都度	3年	パソコン	遵守OK
8	フロン 回収 破壊法	なし	なし	廃棄時 適性処分	回収 依頼書	発生都度	3年	エアコン コンプレッサー	発生なし

[工場立地法について]

- (1)届出対象 敷地面積9,000㎡以上、又は、建築面積3,000㎡以下。
- (2)規制値 敷地面積に対する生産施設の割合 40%以下  
千葉工場 第1～3工場 合計2,290㎡により割合37%  
大網分工場 第1～3工場 合計 940㎡により割合26%
- (3)規制値 敷地面積に対する緑地面積の割合 10～20%以下  
千葉工場 立木・芝生・植込み等
- (4)規制値 敷地面積に対する環境施設面積の割合 15～25%以下  
千葉工場 上記プラス運動施設等

※当工場は「無指定地域」につき、上記の届出・規制値は対象外。  
(建築面積が届出対象の面積であるが、同理由により届出対象外。)

[消防法について]

- |             |                                      |
|-------------|--------------------------------------|
| (1) 工場壁     | 耐火材料。現状は、スレートで耐火材料として認められていない。       |
| (2) 工場周辺建築物 | 工場外壁と周囲建築物との間隔は3m以上。現状は一部3m以下のものもある。 |
| (3) 工場内機械設置 | 工場内壁と機械の間隔は3m以上。現状は一部3m以下の場所もあります。   |

## 2. 利害関係者による評価

※当工場は「無指定地域」につき、上記の届出・規制値は対象外。  
今期中(2015年2月～2016年1月)の利害関係者による指摘・評価等はなかった。

## 3. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規に対する調査の結果、違反はなかった。また、関係当局及び利害関係者からの訴訟・指導・苦情等は、過去5年間無し。

# Ⅸ、 代表者による全体評価と見直しの結果

\*

環境目標、環境改善活動計画とその実績及び環境組織が適正に運用されていることが確認され、次年度に向けての環境方針・環境目標は維持することを決定した。